

糖尿病透析患者における GLP-1 受容体作動薬 リラグリチドの使用経験

長崎腎病院

○江藤りか 宮崎健一 李嘉明 橋口純一郎 小嶺真耶 中島ゆかり 矢野未来
原田孝司 船越哲

【目的】

インスリン治療中の糖尿病透析患者におけるリラグルチドへの切り替え適応を検討する。

【対象および方法】

当院外来の糖尿病透析患者で空腹時 $CPR > 3 \mu U/mL$ の 4 例に対して、入院管理にてリラグルチドを開始し、切り替え前後の血糖変動を CGM (Continuous Glucose Monitoring) にて測定する。

【結果】

インスリンからリラグルチドに切り替え後、 $HbA1c$ は $7.5 \pm 1.51\%$ から $6.9 \pm 0.8\%$ 、血糖変動スコア (Mean Amplitude Glucose Excursions) も 80.6 ± 35.3 から 45.9 ± 30.1 と、それぞれ改善傾向で、低血糖はみられなかった。しかし、リラグルチド開始 2 か月以降に血糖は上昇し始め、結局 3 例で他剤への変更を必要とした。

【考察】

糖尿病透析患者において、インスリンからリラグルチド単剤への切り替えが安全に可能であったが、単剤での効果は限界があると思われる。